

(1) 2013年3月期 通期実績について

■連結損益計算書（要約）

2013年3月期における連結売上高は、前期比、**18.7%減**となる**3,214億円**、
営業利益は、**67.4%減**の**190億円**、経常利益は、**64.0%減**の**209億円**となりました。

厚生年金基金代行返上益など特別利益 **101億円**を計上した一方で、関係会社清算損並びにのれん代の減損損失など、
特別損失 **54億円**が発生いたしました。

また、米国の一部連結子会社の清算結了に伴い、法人税等合計額が減少し、当期純利益は前期比で **53.2%**増加し、
334億円となりました。

■各種費用等の実績

・研究開発費・コンテンツ制作費

主に、コンシューマ事業における構造改革の施策として、パッケージタイトル数が減少した事に伴い、前期比で **15.2%減少**いたしました。

・設備投資額

2012年3月期における遊技機事業新工場設立に伴う投資からの反動減を主要因として、前期比で **9.1%減少**いたしました。

・減価償却費

主に、コンシューマ事業におけるデジタルタイトルの増加及び遊技機事業新工場の操業開始に伴い、前期比で **12.4%増加**いたしました

・広告宣伝費

遊技機事業及びコンシューマ事業において、販売タイトル数が減少したことを主要因として、前期比 **23.8%の減少**となりました。

■連結貸借対照表（要約）

前期末と比較して、流動資産は、売上債権や有価証券の減少等により、**91億円**減少し、固定資産は、投資有価証券の増加（サンリオ株等時価の上昇）やサミー新工場建設等により、**401億円**増加いたしました。

その結果、当期末における総資産は、**5,285億円**となり、**311億円**増加いたしました。

純資産については、**237億円**増加し、**3,200億円**となりました。

自己資本比率は、**59.7%**となり、引き続き、健全な水準を堅持しております。

■連結キャッシュ・フローの状況（主要因）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益を **256億円**計上した一方で、仕入れ債務が **101億円**減少したことなどにより、**プラス186億円**となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入を **426 億円**計上した一方で、有形固定資産の取得に **218 億円**を支出したことなどにより、**プラス 63 億円**となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入により **330 億円**調達した一方で、社債の償還により **235 億円**支出したことなどにより**マイナス 11 億円**となりました。

その結果、当期末における現金および現金同等物の残高は、前期末と比べて、**277 億円**増加し、**1,742 億円**となりました。

■遊技機事業

遊技機事業の2013年3月期実績は、売上高が前期比、**33.0%減**の**1,422 億円**、営業利益は、**66.9%減**の**235 億円**となりました。

パチスロ販売台数は、販売したタイトルは堅調でしたが、主力タイトル『パチスロ北斗の拳』をはじめ、複数タイトルの販売スケジュールを見直したことから、前期比で台数が**約 10 万台減少**の**約 20 万 2 千台**となりました。

パチンコにおいては、主力タイトル『CR 北斗の拳 5 覇者』の販売が好調で、市場における評価も高評価でしたが、大型タイトル偏重の市場環境を受け、その他複数の中堅タイトルの販売が低調に推移した結果、前期比で**約 11 万台減**の**21 万 6 千台**となりました。

■アミューズメント機器事業

アミューズメント機器事業についてですが、2013年3月期の実績においては、大型タイトルの販売が無く、売上高は、前期比、**21.6%減**の**391 億円**、営業利益は、**74.3%減**の**19 億円**となりました。

■アミューズメント施設事業

2013年3月期においては、売上高は、前期比、**4.3%減**の**427 億円**となりましたが、会計方針の変更により減価償却費が軽減したことから、営業利益は、前期比で**約 266.7%増**となる**11 億円**となりました。

■コンシューマ事業

2013年3月期における売上高は、前期比**2.1%減**の**838 億円**、営業損失は、**7 億円**となり、損失幅の縮小となりました。パッケージ分野では、欧米の構造改革の施策として、タイトル数の絞り込みを行ったことにより、前期比で販売本数が減少致しました。

また、当社が成長分野と位置付けております、デジタル分野につきましては、引き続き『ファンタースターオンライン2』が好調となり、また、『キングダムコンクエストシリーズ』が堅調に推移致しました。

玩具事業においては『ジュエルポッド ダイヤモンド』などの主力製品の販売が堅調に推移し、アニメーション事業においては劇場版『アンパンマン』の配給収入や映像配信が好調に推移いたしました。

(2) 2014年3月期 通期計画について

■連結損益計算書（要約）

2014年3月期における連結売上高は、前期比**50.9%増**となる**4,850 億円**、営業利益は、**284.2%増**の**730 億円**、経常利益は、**244.5%増**の**720 億円**、当期純利益は、**40.7%増**となる**470 億円**を計画しております。

配当につきましては、中間配当 **20 円**、期末配当 **20 円**、年間で **40 円**を予定しております。

■遊技機事業

2014年3月期の計画においては、売上高 **2,700 億円**、営業利益 **740 億円**を計画しております。

パチスロにおいては、今期主カタイトル、サミーブランド『**パチスロ北斗の拳 転生の章**』を6月に販売するなど、大幅に台数を増加させる計画となっております。

パチンコにおいても、引き続き厳しい市場環境となる見込みではありますが、主に下期に複数の主カタイトルを投入し、販売台数を増加させる計画となっております。

■アミューズメント機器事業

2014年3月期においては、新作として、『**北斗の拳**』のメダルゲームや、レベニューシェアモデルにおける新作タイトル『**コードオブジョーカー**』の稼働開始を予定していることから、売上高 **455 億円**、営業利益 **27 億円**と増収増益を計画しております。

■アミューズメント施設事業

2014年3月期においては、運営力の強化やショッピングセンターへの出店を進めることにより、国内既存店舗売上高は、前期を上回る **101.8%**を計画し、売上高は前期比 **6.6%増**の **455 億円**、営業利益は **81.8%減**の **2 億円**を計画致します。

なお、グループ内の施設事業を統合したことから、2014年3月期計画値より既存店対象店舗を変更しております。その結果、今期末の店舗数は、**197 店舗**となる見込みです。

また、セガとBBCが展開する自然体験型エンタテインメントパークを7月下旬に開業する予定となっております。

■コンシューマ事業

2014年3月期においては、売上高は前期比 **30.7%増**の **1,095 億円**、営業損益は**黒字化**となる **39 億円**を計画致します。

パッケージ分野においては、前期同様確固たる収益を期待できるタイトルの販売が中心となる見込みです。全体での販売本数は、前期に取得したTHQ Canadaのタイトル、『**カンパニーオブヒーローズ 2**』の販売を見込むなど、**1,166 万本**を計画しております。

デジタル分野では、『**ファンタースターオンライン 2**』のスマートフォン版、スマートデバイス向けタイトルの『**ぷよぷよクエスト**』などの有力IPの新作を投入してまいります。

また、玩具事業においては、「**アンパンマンシリーズ**」、「**ジュエルポッド**」などの定番商品の取組みを強化し、アニメーション事業においては引き続き、映画・テレビシリーズの新作を中心とした事業展開を行ってまいります。

(3) 今後の取り組みについて

■遊技機事業

まずは、遊技機事業における今期の取り組みを説明いたします。

2013年3月期においては、パチスロでの販売スケジュールの遅延などにより、一時的にシェアを落とす結果となりましたが、2014年3月期においては、まずパチスロで大型タイトル『**パチスロ 北斗の拳 転生の章**』を投入するほかに、複数の主力・大型タイトルを用意しており、再度、圧倒的なトップシェアの座を狙ってまいります。

パチンコにおいては、直近では毎年シェアを拡大していた中で、前期は残念な結果となりましたが、2月に設置が開始された

『ぱちんこ CR 北斗の拳 5 覇者』においては、当初計画を超えて更に追加受注を頂くなど、ユーザー及びホールからは極めて高い評価を頂いております。

『ぱちんこ CR 北斗の拳 5 覇者』の様に、しっかりとクオリティの高い製品を投入することにより、パチスロだけではなく、パチンコにおいても、トップシェア奪取を目指してまいります。

また、従来から取り組んでいるマルチブランド戦略についても、引き続き各ブランドの強化に取り組み、グループの総合力を向上させてまいります。

■アミューズメント機器事業

2013年3月期は大型タイトルの販売が無く、減収・減益という結果となりましたが、今期においては、新たに『北斗の拳』のメダル機や、レベニューシェアモデルにおける新作となる、『コードオブジョーカー』を投入する予定です。

今後に関しては、中期的な製品ラインナップを管理し、前期の様なラインナップの谷間を無くし、安定的な収益を創出してまいります。

そのほかにも、従来から取り組んでいるレベニューシェアモデルに続き、新たなビジネスモデルとなる、無料プレイモデルの導入検討を進めてまいります。

この様な製品・ビジネスモデルを元に、市場環境に適応しながら安定的に利益を出していきたいと考えております。

■アミューズメント施設事業

アミューズメント施設事業における今期の取り組みを説明致します。

2013年3月期においては、セガの既存店舗売上が前年比を大きく下回り、残念な結果となりましたが、今後に関しては、店舗の運営力の強化とショッピングセンターへの出店を強化により収益の拡大を図ります。

なお、昨年7月にリニューアルオープンした『東京ジョイポリス』に関しては、宣伝活動の強化等で認知向上に努めており、足元のゴールデンウィーク期間中は、計画を上回る好調な滑り出しとなっています。また、今夏には横浜・みなとみらいに BBC（英国国営放送）の映像コンテンツを使用した世界初の施設を出店いたします。

性別、年齢を問わない自然というコンテンツで、3世代ファミリーを取り込める新しい業態として展開してまいります。

■コンシューマ事業

コンシューマ施設事業における今期の取り組みを説明致します。

2013年3月期においては、欧米の構造改革の施策によるパッケージ部門の改善と、『ファンタシースターオンライン2』の成功に伴い、前年より大幅に収益改善致しました。

2014年3月期においては、ファンタシースターオンライン2をはじめとしたクロスプラットフォーム戦略の展開をさらに進めてまいります。また、有力IPの横展開による更なる育成と新たな収益機会の確保を図ってまいります。

今後の予定として、アニメ等を活用したIP展開を検討しております。

デジタル分野においては、タイトル品質の向上と販路拡大によって更なる収益の拡大を図ってまいります。

■複合リゾート施設関連

将来的な収益の柱と考えている、複合リゾート施設の進捗につき、ご説明いたします。

まずは、昨年5月に発表させて頂いた、韓国仁川市でのカジノを含む複合リゾート施設の進捗ですが、本件は、2016年の開業を予定しており、韓国初の複合リゾートカジノ施設となる予定です。

なお、当該事業のパートナーである、パラダイスグループが現在運営しているパラダイスカジノ仁川を、2013年7月1日付で、パラダイスグループと当社の合併会社であり、当社の持分適用会社であるパラダイスセガサミー社が取得し、直接カジノ施設の運営を行う予定です。

本件に伴い、当社が、カジノライセンスを保有し、カジノ運営を行っている関連会社を所有する状態となります。2016年の複合リゾート施設開業前に、当社から合併会社に人員を送り込み、直接カジノ運営のノウハウを蓄積することも可能となります。

また、2013年1月に発表いたしました、釜山市における複合施設開発については、4月に現地子会社であるセガサミー釜山を設立し、対象となる土地の売買契約も締結済みです。本件についても、仁川におけるプロジェクトと同様に2016年の開業を目指しております。

更には、日本国内での複合施設運営としては、昨年にフェニックスリゾートを完全子会社化しており、人員も送り込んだうえで、運営ノウハウの習得を進めております。フェニックスリゾートに関しては、既存施設の見直し及び改善に着手し、集客力の向上に努めます。

日本国内におけるカジノについて、現在合法化の動きが取りざたされており、合法化の際は積極的に参入したいと考えておりますが、参入する際には、これら国内外における複合リゾート施設の運営ノウハウ・運営実績が、当社の強みとなると考えております。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって、大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。